

## 自己評価報告書

平成23年 4月21日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330041

研究課題名（和文） 教育政策や教育効果のミクロ計量分析

研究課題名（英文） Microeconomic Analyses of Educational Policies and Their Effects

研究代表者 吉田 あつし（YOSHIDA ATSUSHI）

筑波大学・大学院システム情報工学研究科・教授

研究者番号：60240272

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済統計学

キーワード：経済統計学・経済政策・財政学・学校選択・教育の質・教育の成果・資本化仮説・  
大学教育の効果

## 1. 研究計画の概要

この研究は、義務教育と高等教育のレベルで、学校別データまたは学生・生徒の個票のようなマイクロデータを用いて、教育政策や教育効果を分析・評価すると同時に、そのための計量的な分析手法を開発することを目的としている。

義務教育レベルでは、学校選択制などの教育改革政策の導入や、私立中学への補助金、規制や協定が、児童・生徒の学力向上につながったか、私立中学への進学率の変化をもたらしたか、私立中学間、私立中学と公立中学間の競争にどのような影響を与えたか、これらの結果、教育の質は地価に資本化されるかを検証する。

高等教育レベルでは、入学時の成績が、卒業時の成績に有意に影響を与えているか、卒業次の成績で測られた大学教育の成果が、卒業後の社会的ポジション等に有意に影響を与えているか、を検証する。以上を通じて、政策評価や政策・教育効果を測定するための計量的手法を開発する。

## 2. 研究の進捗状況

義務教育レベルについては、東京都の市区ごとの私立・国立中学進学率、および情報開示請求によって得た23区の2000年以降の小学校別私立・国立中学進学率を用い、学校選択制の導入が私立進学率にどのような影響を与えたのか、学区の社会経済的特徴、特に社会的な地位が高い職業（管理的職業従事者や専門的・技術的職業従事者）の就業者比率が高い地区かどうかによって、学校選択制の導入

により、他学区の公立校を選択する確率は異なるのか、より多くの生徒から選択された公立校の試験成績は有意に高いのか、について検証を行なった。また、宅建協会の会員が評価した地価データを用いて、学校の質が地価に資本化されているのか、学校選択の結果資本化の程度は異なったのかを検証した。さらに、私立中学間でどのような競争が行われているかを明らかにするため、東京都と神奈川県私立中学の初年度入学金や入試日程データを用いて、似た学校間では初年度入学金は似たような額になり、また入試日も集中する傾向にあるかを検証した。さらに、学校選択制が導入されると、初年度入学金がどう変化するかも分析した。

高等教育レベルでは、大阪府立大学および筑波大学・大学院の個票データを用いて、入学時の成績により卒業時の成績を予測することができるか、どの入試科目の成績の予測力が高いかを検証した。また、入学後の特定の科目を受講しているかどうか、その単位を取得したかどうか、その後の成績に与える影響についても検証した。

政策評価を行う上で、無作為割当にできるだけ近い状況のデータを用いることが必要である。「差の差」分析や非連続回帰分析、およびこれらを組み合わせた方法が、疑似無作為割当での分析になり有効であることを示した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

研究計画の概要に従い研究を進めており、成果物も順調に発表している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

研究成果の多くはすでに投稿されているが、未だ採択に至らない論文や投稿論文にまで完成しきれていない研究もある。今後、それらを改訂または完成させまとめ投稿・採択を目指す。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① A. Yoshida, K. Kogure, K. Ushijima, “School Choice and Student Sorting: Evidence from Adachi City in Japan” *Japanese Economic Review*, Vol. 60, No. 4, pp. 446-472, 2009, 査読有.
- ② 牛島光一, 吉田あつし, “小学校における学校の質は地価に影響するか?—東京都特別区の地価データを用いた検証” 応用地域学研究, No. 14, pp. 37-47. 2009, 査読有.
- ③ Y. Murasawa, “Do Coincident Indicators Have One-Factor Structure?” *Empirical Economics*, Vol. 36, No. 2, pp. 339-365. 2009, 査読有.
- ④ 吉田あつし, “新指導要領下での評価に耐えうる学校経営” 学校マネジメント, No. 615, pp. 12-13. 2008, 査読無
- ⑤ 吉田あつし, 張璐, 牛島光一. “学校の質と地価” 住宅土地経済, No. 68, pp. 10-18. 2008, 査読無.

[学会発表] (計2件)

- ① Shigeki Kano “Copula-based Structural Limited Dependent Variable Models: Application to the Effect of Female Labor Force Participation on Fertility” Econometric Society Australasian Meeting, July 8, 2009, Australian National University, Australia.
- ② Kentaro Fukumoto, Atsushi Yoshida, Naoki Matsumoto “School Choice

Effects on Land Prices: Difference-in-Differences in Regression Discontinuity Design” The International Symposium on Statistical Analysis of Spatio-Temporal Data, Nov. 5, 2010, Kamakura.

[その他]

- ① 吉田あつし, “私立中入試—経済学で考える” 日本経済新聞 2010年5月5日朝刊「経済教室」2010.
- ② 吉田あつし, “高まる私立中進学熱” 日本経済新聞 2008年5月28日朝刊「経済教室」2008.